

事業所名: アゼリーアネックス保育園

令和6年度
福祉サービス第三者評価
評価結果報告書

評価機関(機構07-172)
合同会社 福祉経営情報サービス

福祉サービス第三者評価結果報告書(令和6年度)

2024年 12月 3日

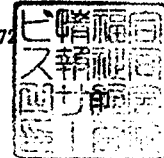
アゼリーアネックス保育園
施設長 中村一与殿

郵便番号 104-0061
所在地 東京都中央区銀座6-6-1 銀座風月堂ビル5F

合同会社 福祉経営情報サービス
評価機関名

認証評価機関番号
電話番号 03-5537-7750
代表者氏名 渡邊廣貴

機構 07 - 172



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		総務	H0403033
	②		福祉	H2001044
	③		福祉	H2201038
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	地域型保育事業 事業所内保育所			
調査対象事業所名称	アゼリーアネックス保育園			
事業所連絡先	郵便番号	132-0022		
	所在地	東京都江戸川区大杉2-10-16		
	電話番号	03-5607-7860		
事業所代表者氏名	中村一与			
契約日	2024年 8月 1日			
利用者調査票配布日(実施日)	2024年 6月 17日			
利用者調査結果報告日	2024年 7月 16日			
自己評価の調査票配付日	2024年 6月 17日			
自己評価結果報告日	2024年 7月 16日			
訪問調査日	2024年 9月 5日			
評価合議日	2024年 10月 4日			
コメント (利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入)	利用者調査(アンケート): ・配布した事業所に協力をして頂いた。 事業評価: ・経営層自己評価の中で課題として認識している項目については、その課題に対する対応状況等を聞き取り現状の把握に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

2024年 12月 3日

事業者代表者氏名 アゼリーアネックス保育園 施設長 中村 一与



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p style="text-align: center;"> ～経営理念～ 利用者第一主義 地域社会への貢献 仕事を通しての自己実現 </p> <p style="text-align: center;"> ～行動指針～ つねに、守る・、つねに、成長する・つねに、協力しあう・つねに、チャレンジする </p> <p style="text-align: center;"> ～園のコンセプト～ ～自立～ 『一人出来るもん』 </p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p style="text-align: center;"> 素直 プラス発想 勉強好き </p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営理念や行動指針に沿った行動をとる。 ・向上心を持って何事にもチャレンジする。 ・子どもの成長に大きくかかわる大事な時期に保育を行っているという責任感を持ち、子どものためにどう保育していくのか常に考えて保育を行う。

調査対象	保育園を現在利用している全世帯の保護者を対象に調査を行った。 1世帯で複数名の子どもが通園している場合は1回答とした。 子供総数:16 世帯数:16	
調査方法	・調査項目:東京都福祉サービス第三者評価の標準様式に準拠。 ・事業所への報告:自由回答については匿名性への配慮を行った上で事業所に報告した。	
利用者総数	16	
利用者家族総数(世帯)	16	
共通評価項目による調査対象者数	16	
共通評価項目による調査の有効回答者数	11	
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	68.8	

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では「大変満足」が回答の64%、「満足」が36%であり、回答者全員が「大変満足」「満足」のいずれかを選択している。

総合感想の自由記述では、常に全体に気を配っているため、「安心して預けることができます。」という回答や「子供のちょっとした変化でもきちんと共有してくれるので安心感がある。」等、園の保育に「安心している」という回答が複数あった。そのほか、職員が「いつも笑顔で柔軟に対応してくれ、子どもの成長と一緒に喜んでくれる」「目がしっかり行き届いていると感じる」等、職員とその対応への謝辞も複数見られた。

意見や要望としては、「降園時に園での様子を伝えてもらいたい」という旨の意見のほか、提出物の締切がタイトであるという意見等、情報提供・連絡に関する内容がいくつか見られた。個別の設問への自由回答はあまり多くは得られていない。

なお、以下の利用者調査結果のコメント欄にある選択肢の回答率については「無回答・非該当」を除いた数値を参照して記載している。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では「保育園の保育のおかげで成長しているように感じる」旨の回答があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答欄に意見はなかった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	9	2	0	0
回答者の82%が「はい」を選択している。この設問の自由回答欄に意見はなかった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では「ほぼ毎日お散歩に連れて行ってきて感謝しています。」という回答のほか、「毎日のように園外に出ている高年齢者との交流もあり良いと思う。」等、高年齢者との交流機会があることを評価する回答が複数あった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	10	0	0	1
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では「スポット利用ができるのは助かります。」という回答があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	8	2	0	1
回答者の80%が「はい」を選択している。この設問では、毎日の視診がしっかりしているという回答のほか、「目が行き届いているので問題は起きないと思うが」としたうえで、子どもの行動もしくは設備上の心配をする意見が見られた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	8	3	0	0
回答者の73%が「はい」を選択している。この設問の自由回答欄に意見はなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	7	3	0	1
回答者の70%が「はい」を選択している。この設問では「面談の機会や、連絡帳への丁寧な返信など逐一相談できると感じている。」という回答のほか、「連絡帳だけでなく、送迎時にも話があると良い。」「降園時に子どもの様子を詳しく教えてくれ感謝している。人により差があるが不満はない。」旨の回答があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	9	2	0	0
回答者の82%が「はい」を選択している。この設問の自由回答欄に意見はなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	9	2	0	0
回答者の82%が「はい」を選択している。この設問では「時々適切ではない言葉がある」という旨の回答があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	9	2	0	0
回答者の82%が「はい」を選択している。この設問では、けがの対応は適切で大変信頼しているが、発熱時の連絡のタイミングについては「もう少し早く連絡してほしい」という回答があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	1	0	2
回答者の89%が「はい」を選択している。この設問の自由回答欄に意見はなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	10	1	0	0
回答者の91%が「はい」を選択している。この設問の自由回答欄に意見はなかったが、総合的な感想の欄には「子どもの気分が乗らないときも、職員がいつも笑顔で柔軟に対応してくれ、子どもの成長も一緒に喜んでくれて嬉しい」旨の回答等、設問に関連する内容が得られている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	9	1	0	1
回答者の90%が「はい」を選択している。この設問の自由回答欄に意見はなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	9	2	0	0
回答者の82%が「はい」を選択している。この設問では、「毎日丁寧な連絡帳(園での様子)ありがとうございます。微笑ましい内容だったり、時々クスッと笑えるエピソードもあり、夕方連絡帳見るのが楽しみです。」という回答のほか、「行った公園ややった遊びは毎日教えてくれます。(保育園で歌っている)お歌を教えてくださいとより嬉しいです。」という回答があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	7	1	0	3
回答者の88%が「はい」を選択している。この設問の自由回答欄に意見はなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	3	4	1	3
回答者の38%が「はい」を選択している。この設問の自由回答欄に意見はなかった。				

I 組織マネジメント項目（カテゴリ1～5、7）

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
		評点(〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
		評点(〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
		○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	
		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
		○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
		○非該当
	カテゴリ1の講評	
	法人の理念や園運営の方針を職員に丁寧に伝え、理念の浸透に注力して取り組んでいる 年度末にアゼリーグループ全体でビジョンや年度の方針などについて理事長から周知がされており、年度当初には園内において園長から事業計画に基づき当年度の運営方針や目標について、パート職員を含む職員全員に周知がされている。基本理念やビジョン、行動指針、目指す人材像などは理念ブックや職員一人ひとりが所持するカード(クレド)に記載され、法人が開催する職階別研修で理念等を毎回共有している。そのほか、昼礼時と毎月の園内研修実施時に唱和し、年2回全員が参加する研修においても伝えており、職員に向けた周知と浸透策を徹底している。 保育の方向性や方針、ビジョンを職員に提示し、職務におけるチャレンジを推奨している 理念の浸透に注力しており、経営理念とビジョンに加えてどのような保育を行っていくのかという保育のコンセプトを職員会議などの場で園長から職員に伝えている。園長が方向性を示し、また、その理由も伝えることで職員が同じ方向を向いて保育を実践してもらっている。子どもの将来を見据えた保育を実践するには伝える側の職員の自立と自己肯定感が大切であることから、チャレンジ(失敗を恐れずあきらめないこと)を推奨し、研修を充実させることなどにより職員が自己肯定感を高められるよう取り組んでいる。 園運営や保育に関する重要事項等は、パート職員にも丁寧な情報提供がされている 法人の決定事項は年度末に法人の全職員向けに周知され、園運営や保育に関する重要事項は年度初めの職員会議や園内研修等の機会に周知がされている。また、当年度の重点課題と目標については園で作成している事業計画に沿って職員に向けた周知がされている。職員会議にはパート職員も参加しており、重要事項や連絡事項が全職員に周知されている。パート職員については「パートナー職員」として重要な戦力と位置づけ、丁寧な情報提供をしており、職員会議においてもパート職員から積極的な意見が提案されている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>各種アンケートにより保護者や保育のニーズ、職員意向を把握して園運営に活かしている</p> <p>保護者向けのアンケートは行事実施後に実施するほか、食育に関するアンケートなど、年3、4回はアンケートを実施して保護者の意向を確認している。また、園見学者にもアンケートを行い、保育ニーズを把握し、園運営や改善に活用している。職員の意向は本部で実施する毎年のパーソナルアンケートで確認がされており、各職員が自己申告し、理事長が確認したうえで園にもフィードバックされている。園内ではパート職員を含む全員参加の職員会議の中で職員の意見を聞き取っており、職員が理解し、納得できるよう園長から回答している。</p> <p>地域・社会のニーズ把握に努め、職員や専門家の意見を踏まえ課題を抽出している</p> <p>地域の動向や保育のニーズについては隔月で開催される区内小規模園の園長会への参加のほか、連携園であるアゼリー保育園や、法人の系列保育園と幼稚園で組織し毎月開催される「未来を創る会」からも情報が得られている。法人の取り組みでは顧問のコンサルタントから事業を取り巻く環境などの情報が得られている。園の事業計画上の課題については毎月開催する法人の会議の中で定期的にコンサルタントからのアドバイスを受けており、その内容や職員の意見なども踏まえて事業計画が策定されている。</p> <p>目標達成に向けた実施事項を明確にして、計画に基づいた進捗管理が実施されている</p> <p>事業計画は園長が作成しており、令和7年度からは副園長も加わり作成する予定である。事業計画では保育や園運営、環境整備、地域貢献、人材育成の各テーマで現状課題を抽出し、目標を設定して達成のための対策を立てている。計画はSTEAM保育や自立支援保育などの方針に沿って運営面も考慮し総合的かつ具体的に策定されており、極力定量化して実施事項を明確にしている。計画の進捗については毎月のコンサルタントとの打ち合わせで報告しアドバイスを心得て管理している。加えて年度末に達成度評価を実施して次年度の計画に反映させている。</p>		

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一人としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリ-3の講評

クレドの読み合わせや研修への参加により、行動指針や虐待防止などを職員が学んでいる

毎日の屋礼では職員の行動指針や目指す人材像、目指す職場(5S)など、クレドに記載された事項を読み上げ、読み合わせをしている。法人の階層別研修では1年目、2年目等、勤務経験に応じた研修が実施されており、社会人としてのマナーや姿勢などのテーマを職員が受講している。また、毎月の園内研修の中では見守り保育などのテーマのほか、虐待・不適切保育に関する研修を実施して職員が学んでいる。加えて年度末の園の全体研修においても実施されている。

保護者アンケートで得られた要望などに丁寧に対応している

苦情解決制度については重要事項説明書への記載や玄関への掲示により周知がされており、制度の内容についてはWEBシステムにより保護者からの同意を得ている。保護者からの要望は園全体としては主に保護者アンケートから収集している。苦情はあまりないが、申し出があったときは内容、原因、対策まで記録し苦情解決の仕組みに沿って処理されている。また、保護者アンケートで得られた苦情や要望などは一つひとつ対応し園長も解決にあたっている。小規模な保育園であるため保護者との距離が近く、保護者の日常的な要望等を把握しやすい環境がある。

地域と連携し、虐待防止への取り組みや地域福祉への貢献がなされている

虐待防止に関しては、マニュアルを整備して職員が対応できる状態にしている。また、児童相談所との連携や地域の虐待実務者会議に参加するなど、地域において積極的な働きかけもおこなって関係機関と連携して対応する体制を築いている。地域貢献としては、法人で子ども食堂を8月にオープンさせている。地域の子どもや子育て家庭、老人を対象として、孤食の解消や居場所づくり、保護者と子どものコミュニケーションの場づくりを目的とした支援を開始しており、地域福祉への貢献度も高まっている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>BCPや安全計画を整備し、研修を通じて想定されるリスクへの対応がされている</p> <p>BCPは各種災害と感染症について策定されている。安全点検やマニュアル策定、安全指導、各種訓練などについては安全計画に明記して計画的に安全性の確保と向上に取り組んでいる。安全管理マニュアルでは、危機管理、地震、火災、事故、応急処置、不審者対応、置き去り防止などの手順を標準化している。事故対応等はフローチャートを作成し、わかりやすくすることで手順に沿って迅速な対応ができるようにしている。また、夏のプール遊びを担当する職員は普通救急研修を年1回受講する等、発生しうるリスクを想定した研修が実施されている。</p> <p>内外の研修に参加して危険予知の意識を高め、訓練内容の見直しなどが実施されている</p> <p>避難訓練は毎月の地震・火災に加えて防犯、水害避難、引き渡し訓練などを毎回想定を変え、目的を明確にして実施している。避難訓練実施後は、振り返り、反省をして改善・向上を図っており、災害の想定や避難の仕方、避難経路など見直している。事故防止ではまた、要因を究明することを徹底し、職員に対策を周知して予防と再発防止に努めている。また、事故防止や感染症対策については園内研修や外部研修に参加して学んだ内容を園内で共有し、危険予知の意識付けや様々なリスクへの気づきを持つよう取り組んでいる。</p> <p>ICT化、DX化、業務効率化を法人として推進し、ICTの活用度を高めている</p> <p>個人情報保護については規程に定め、重要事項説明書に記載し、利用目的等について周知をしている。また非常勤職員を含む職員からは守秘義務に関する誓約書を得て情報の保護を徹底している。PCとタブレットは各クラスに1台配備されており、情報セキュリティについては法人で管理している。法人ではICT化、DX化を推進している。法人のDXプロジェクトではICT化やITスキルの向上を推進しており、ITが苦手な人も活用できるよう取り組んでいる。また、ヒヤリハットの活用度を高めるための取り組みなどもあり、ICTの活用度を高めている。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

パート職員の戦力化や意欲的に働ける環境づくりをして、定着が図られている

事業所が求める人材像については「素直・プラス発想・勉強好き」としてクレドに明示されており、毎日の読み合わせにより浸透が図られている。採用について、園ではパート職員を「パートナー職員」として、会議への参加や意見具申、記録などもしてもらおう等、戦力化しており、長く勤務するパート職員も多い。これらの取り組みにより、パート職員も「受け身でなく力を付けてきた」と経営層は評価している。また、チャレンジしやすい環境を整備し、面談などで本人の意向を把握し、意向を踏まえて職員個々のチャレンジを奨励している。

法人・園内の研修体系を整備し、外部の研修も積極的に活用して人材を育成している

人事考課面談は年2回実施している。自己評価にはICTを用い、身だしなみや挨拶、言葉遣い、リスクマネジメントや報連相など組織人として必要なスキルを自己評価し、法人本部と園で評価し、面談で本人にフィードバックして職員個々の向上が図られている。正規職員はキャリアアップ研修に積極的に参加させているほか、勤務年数と職階で分けた法人の階層別研修体系があり、人材育成やリーダーシップ、ロジカルシンキング等、経験や役職に応じて職員が学んでいる。また、見守り保育や発達支援など、保育実施面は毎月の園内研修で職員全員が学んでいる。

全職員で意見を出し合い、研修を実践に活かして目指す保育に向けその質を高めている

勤務実態を踏まえて処遇手当や時給のアップを行うほか、必要に応じ個別面談を実施して年度途中であっても勤務時間を見直すなど働きやすさに配慮している。メンタルケアはストレスチェックの制度の中で実施されている。全員参加の職員会議においては、気になっていることや改善案等の意見がパート職員からも具申され、クラスを超えた話し合いの場が設けられている。また、全ての子どもを全職員が見る、理解するという意識で保育することを心がけ、外部研修受講後は園内研修等で質の向上を図り、研修を実践に活かせるよう取り組んでいる。

7 カテゴリー7	
事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
職場全体への理念浸透については、パート職員の理解が進んでいなかったことから、令和5年度は「アゼリーグループのビジョン・理念・行動指針を全職員が把握している。」状態にすることを重要課題の一つとして取り組んだ。取り組みとして、理念に関する園内研修を実施したほか、毎日の昼礼での唱和をおこなった。ただし業務多忙により昼礼ができなかったこともあり、年間を通しての実施はできなかった。結果的には正規職員の理解度に比べパート職員に十分浸透したとは言えず、令和6年度も、昼礼での唱和、職員会議などの場で理念を伝えていく、理解度アンケートの実施などを予定して、継続して取り組んでいる。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
事業計画の目標としては掲げられていないが、理念やビジョンの理解浸透策は毎年の実施事項として継続して取り組まれていることである。正職員は法人の階層別研修の中で毎年理念・ビジョンに触れているがパート職員については課題があったため、重要課題の一つとして具体的に実施事項を設定して再度の徹底に取り組んでいる。取り組みを振り返った結果、昼礼における唱和が業務多忙により十分実施できなかった等もあり、成果としては十分でなかったため、継続した課題として今年度も具体的な実施事項を定めて徹底に取り組んでおり、年度の取り組みを総括し、検証して次年度の課題を抽出し、実施事項を定めて課題解決に努めている。	

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>法人の保育園で推進しているSTEAM保育や自立支援保育については正規職員、パート職員ともに十分な理解が進んでいないことから、令和5年度はその強化を目標とした。</p> <p>取り組みとして、法人が開催するSTEAM保育研修への参加のほか、園内では自立支援保育・見守り保育の研修を実施した(法人研修は4回の参加、園内研修は3回開催)。研修では職員による発表なども取り入れ、「自立支援とはどんなことなのか」を皆で考え、共有していった。また、令和5年度は正職員中心に進めたが、パート職員も動画の記録などを担当して実務の中でSTEAM保育や自立支援保育を体感した。</p> <p>取り組みの結果、職員の理解度が高まり、日々の保育の中でも子どもの言葉や行動で、「これってSTEAMでは？」と気づけるようになってきた点は成果であった。また、継続する中でパート職員への浸透もしつつある。</p> <p>令和6年度も重要課題として位置づけ、STEAM保育・自立支援保育を行う上で必要以上の声掛けや援助を行わないこと、子ども自身が考え行動できるようにしていくことで自立につながるようになっていくこと、感触遊びや様々な経験が出来るよう保育内容を工夫していくことを実施事項として掲げている。</p>	
<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>STEAM保育、自立支援保育(見守り保育)の浸透については提供する保育の軸として強化策を継続している。令和5年度は研修の実施と発表、動画による学びなどを取り入れて理解が深まるよう取り組んでいる。今年度の実施事項は事業計画書にも記載されており、前年度を振り返り現状課題を把握し、目標を設定して実施事項を明確にしている。知識習得とその実践により、子どもの自立を支援して行くことに継続的かつ計画的に取り組んでおり、これらの継続的な取り組みを通じて園の保育がパート職員にも浸透してきていることは大いに評価したい点であった。</p>	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ1の講評			
<p>WEBページでは園のコンセプトである自立支援型保育等、園の特徴が伝えられている</p> <p>WEBページでは小規模保育園ならではの保育に関することや、連携施設であるアゼリー保育園との交流があり3歳児から優先的に移行できること、併設する運営法人の高齢者施設との交流が盛んであることなどが伝えられている。また、自立支援型保育については、その一例として、トイレトレーニングについて、保護者アンケート結果も引用して詳しい案内がされている。そのほか、動画で食育活動のコマを紹介している等。入園を検討している保護者が園の特徴を理解しやすいようコンテンツの工夫をしている。</p> <p>地域型保育事業の小規模な保育園であり、区との情報交換を密にして運営されている</p> <p>地域型保育事業の事業所内保育所として区の認可を受けている保育園であり、園の情報は区からも提供されている。園からは区の担当課に空き情報の提供や入園時の情報提供等がされている。江戸川区のサイトでは事業所内保育所として、地域枠や連携施設であるアゼリー保育園のリンク等が案内されている。そのほか、区の運営支援係と定期的な情報交換がされているなど、細かな情報のやり取りがされている。入園に関しては園のWEBページに区の担当課の連絡先とウェブサイトへのリンクを掲載して周知がされている。</p> <p>わかりやすい案内資料を作成し、保護者のニーズに応じて丁寧な見学案内をしている</p> <p>園見学については問い合わせ先をWEBページに記載し周知している。見学希望があれば個別に対応しており、今年度からは平日以外に土曜日も月1回、見学日を設けて保護者のニーズに応じている。案内資料には、自立支援型保育やSTEAM保育のこと、小規模な保育園で個々に信頼関係を築いていくこと、連携園の優先枠のことなどを記載し、QRコードにより関連する動画やSNSサイトも紹介して保護者に園の情報を提供している。見学案内時は園のコンセプトや保育内容を必ず伝え、どんな子に育つか、未来を想像できるような形で伝えることにしている。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園前は家庭と子どもの状況を把握し、情報提供や説明を個別に行なって同意を得ている</p> <p>入園に必要な書類は保護者に予め送付し保護者から質問事項があるときはその時点で対応している。入園説明は保護者個別にパンフレットと重要事項説明書を渡してその内容に沿って行い、説明後は説明を受けたことについての同意を得ている。なお、同意は在園児についても重要事項説明書に変更があったときは説明の上で得ている。入園児保護者との面談時は、家庭状況や食事、睡眠、健康状態や遊びなど、子どものことについて確認し面談表や児童票に記録している。また、保護者の就労状況や延長利用の有無などについても面談時に確認している。</p> <p>入園直後は子どもが新しい生活に慣れるよう配慮し、きめ細やかな対応をしている</p> <p>入園直後はスキンシップをとって情緒の安定を図り、また、保護者の意向や子どもの月齢、様子に合わせて慣らし保育を実施している。慣らし保育は1週間から10日間程度の期間を設け、登園後1時間だけ過ごすことから開始して徐々に時間を延ばしていくが、子どもの状況やストレスを考慮して個々に時間を決めることになっており、子どもが保育園を嫌いにならず、楽しく過ごせるよう保護者にも伝え、連携して当初の保育をおこなっている。慣れてきたときには当初の予定よりも長く預かることもあり、小規模な園ならではのきめ細やかな対応がされている。</p> <p>卒園前には子どもが安心して新しい生活を開始できるよう配慮した支援をしている</p> <p>2歳児は秋の保護者懇談会で、排せつや身支度など、卒園に向け保護者と目標を共有している。卒園後は大部分の子どもが連携施設であるアゼリー保育園に入園している。そのため、在園時から連携施設のアゼリー保育園へ行き定期的な交流を多く持ち、また、例えば男の子は立ち便器で排泄を行う練習をするなど、自園にはない設備を意識して使うこともおこなって、子どもが安心して新しい園での生活に入っていけるよう配慮し支援をしている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	13/13
3 個別状況の記録と計画策定			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>記録から子ども個々の発達を毎月確認し、個別の指導計画を作成している</p> <p>子ども個々の発達状況については児童票に記録され、年齢毎に運動、発達、人間関係など、領域毎の具体的な活動目標の達成状況と子どもの姿を記録している。児童票の記録はシステムを利用し、年齢児ごとに定期的に記録をしている。児童票の確認は、0歳児は毎月、1,2歳児は2ヶ月に一回、各クラスで子ども個々の発達を確認し記録している。計画は年齢児毎の計画、個別計画ともに個々の子どもの発達に沿って作成されており、月に一度、子どもの発達に関する会議を開催して職員間で共有している。</p> <p>全体的な計画に基づき、子ども個々の発達に沿った各指導計画が作成されている</p> <p>保育の全体的な計画は連携園であるアゼリー保育園と内容を照らし合わせ、整合性をとり作成している。全体的な計画を踏まえて各クラスで年間の保育指導計画、月案、週案を作成しており、月案は年間指導計画を参考に、保育のねらいに沿って内容や配慮事項を検討して作成し、毎月末に評価・反省・月のまとめを実施して記録している。計画は年齢児毎の計画、個別計画ともに個々の子どもの発達に沿って作成されており、生活リズムや食事、離乳食の段階のほか、外国籍の子どもも多いので言葉について等、個別の見極めをして作成がされている。</p> <p>ICTを活用し、子どもの記録や連絡事項を園全体で共有することが出来る環境がある</p> <p>子ども個々の状況の記録は、児童票や各計画のほか、日誌や観察チェック簿、連絡帳アプリ等に記録されている。児童票、保育日誌など記録類はすべてシステムで管理されており、園児の記録は正職員やパート職員にも共有されている等、ICT化の推進により情報の共有がしやすい環境がとられている。また、子どもに関する情報については、昼礼の時間を長くとり、個々の状況や個々に気になったこと等を話し合っ職員間で共有しており、援助方針や援助方法についての話し合いも昼礼の時間を実施している。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>インターネットでの情報公開時や保育の現場で子どものプライバシーに配慮している ウェブサイトやブログ、SNS等での写真の公開など、子どもの肖像については保護者の意向を個別に確認し同意を得た上で利用しており、特にインターネット上での公開については厳密に対応している。 各保育室のトイレには仕切りが設置されている。衣服の着脱時は、外部から見えないように配慮しているほか、トイレトレーニング実施時は、トイレ内でオムツを履き、室内で衣類を着ることで一度に全て脱いでしまわないよう工夫をしている。そのほか、プール遊び時の簾設置など、視察時も、子どものプライバシーに配慮して支援している事を確認している。</p> <p>子ども一人ひとりに合わせた生活環境を設定し、「自立」を見守る保育が実践されている 0歳児から2歳児までの「自立支援型保育」を推進し、子どもの自立(「ひとりできるもん」)を園のコンセプトとして掲げている。小規模な保育園であるため、子ども一人ひとりに対してきめ細やかな対応ができる環境があり、個々の子どもの生活リズムに合わせた生活環境を設定している。職員には、子どもを見守り、チャレンジする意欲を大切に基本的生活習慣が身に付けられる支援を行うことを周知してその浸透を図っており、自立支援型保育を推進する中で子ども個々の「自己肯定感」を育んでいる。</p> <p>研修の実施と適宜の周知により、虐待や人権尊重に関する理解を深めている 虐待防止に関しては、園内研修の中で虐待・不適切保育に関する研修を実施しているほか、年度末の園の全体研修においてもセルフチェックを併せて実施している。そのほか、園長から職員会議後に周知したり、受講した外部研修の内容を伝達するなど職場への浸透が図られている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>安全確保に関するマニュアル類が整備されており、現場や研修などで活用されている</p> <p>マニュアルはアレルギーや虐待対応、事故対応、感染症予防、保育業務などが作成されており、職員がいつでも確認できるよう保管されている。また、心肺蘇生や与薬、窒息、痙攣などの対応についてはマニュアルのほかにフローチャートを用意して対応できるようにしている。各マニュアルは関連するテーマで実施される園内研修の際に確認したり、プール遊びの手順を職員会議で確認する際など、保育の現場で活用されている。</p> <p>職員の意見を聞き、話し合って業務や保育環境の改善をしている</p> <p>マニュアルや業務の基本事項は、日々の業務の中で定期的に話し合い、マニュアルと実務のズレが生じているときなどに適宜見直しており、最近の事例としては、避難訓練マニュアルの大幅な改定がされている。業務改善や手順の検討をする際は、会議などの場において職員からの意見を募り、正規職員と非常勤職員が積極的に意見を交わしており、その過程で職員の共通認識も得られている。保護者の意見は主にアンケートで把握し、改善や保育・サービスの質の向上に役立てている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの発達に合った環境を設定し、見守ることで主体性を育てている</p> <p>子ども達の様子を観察し、職員全員で子ども全員を見ることを心がけている。室内は発達に応じた玩具を選別するなど環境を整え、極力広いスペースで活動が出来るようにしており、また、感触遊びなどを取り入れて、子どもの興味の幅を広げるとともに、見守り保育を実践し子どもが主体的に活動できる環境にしている。視察時も特に0歳児は一人ひとりで関わる姿が見られ、子ども一人ひとりを受け止めて、声掛けや援助が行われていた。また、室内遊びや戸外遊びでは子どもが主体となり、興味のある玩具や遊びを見つけて活動をしている。</p> <p>多様性を子どもが自然に受け入れ、その環境の中で子どもたちの成長が見られる</p> <p>子ども達の主体的な活動を職員は見守り、できた時に褒めるようにしており、日頃の取り組みの中で、子ども達は外遊びでも自分で考えて遊ぶようになってきている。</p> <p>年齢や肌の色、言葉、文化の違いを子ども達は気にすることなく自然に受け入れている。同じ環境の中で多様性を受け入れ、共に生活をしている。異年齢で合同にできるところは合同での保育を実施しており、小さな子は模倣をすることで成長が見られ、年上の子は年下の子に譲ったり、泣いている子に優しくする等の姿があり、異年齢保育により子どもの育ちも変化している。</p> <p>子どもの発達について職員間で共有し、発達段階や個々に応じた対応がされている</p> <p>子どもの発達に関しては、保護者と細やかにやり取りをして、職員にも周知し、同じ対応が出来るようにしている。発達が気になる場合や少し配慮が必要な子どもについては、各2名の担任に加えフリー保育士を配置しているため、通常の職員体制で対応することが出来ている。0歳児後半～1歳児は噛みつきが多くなる時期であるため、自由遊びの時は、子ども個々の傍に保育者が付き、未然に防げるように配慮している。2歳児になると子ども同士の玩具の取り合いなどもあるが、トラブルがあったときは双方の話を聞き、お互いが納得できるよう援助している。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>子どもの様子を保護者に明確に伝えることに取り組み、信頼関係を築いている</p> <p>登園時は口頭で子どもの様子を確認し、食事や排泄・機嫌・睡眠・前日の様子などは連絡アプリに入力してもらった内容を確認しており、特に前日欠席だった場合は詳しく確認することとしている。降園時は、子どもの様子をエピソードを交えて話すことを心がけている。例えば、イヤイヤ期で機嫌が悪く怒っている子に対して叱ったことなども保護者に伝え、家庭での様子を確認している。子どもの様子を伝える際には、良い事も悪い事も伝えることを大切に考えており、これも保護者との信頼関係構築につながっていると自負している。</p> <p>生活習慣の支援では、子どもが自ら意欲的に楽しくチャレンジできるよう援助している</p> <p>離乳食は子どもの様子や保護者の意向を把握し、保護者と連携を取って個々に対応して、園と家庭の間で統一した対応が出来るようにしている。トイレトレーニングは1歳児クラスから、個々の発達やペースに合わせて開始している。実施の際は子どもとのコミュニケーションを大切に段階を踏み、子どもが楽しく取り組めるよう環境を整えて進めている。食具の持ち方や着脱についても毎日の積み重ねの中で進めており、着脱は1歳児後半から挑戦している。視察時も小さいながらも着脱を自分でやってみようとする姿が見られ、子どもの意欲が伝わってきた。</p> <p>家庭へのアドバイスもしつつ、子ども個々の生活リズムに合わせた休息の支援をしている</p> <p>午睡の時間は照明を消し、カーテンを開けて明るさを調節するなど環境を整えている。0歳児は自宅での睡眠時間なども踏まえ、生活リズムに配慮して午前寝などを取り入れている。早く寝ることや、朝や食事の時間を整えることなど、生活習慣については保護者にも伝えており、必要に応じてアドバイスもしている。たとえ保護者から午睡させないよう要望があったとしても、休息が中途半端にならないよう、無理やり起こすことはせず、まずは家庭での生活リズムを整えることをアドバイスしている。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子ども達がゆったりと過ごすことができ、主体的に活動できる環境づくりがされている</p> <p>外遊びや自由時間は好きな玩具で遊び、カーペットの上で寝転んでゆったりと過ごせる環境がある。0歳児の保育では子どもと一対一で関わる中で、身振り、手ぶりで、子どもの意志を代弁している。1、2歳児は、子ども同士の関わりを見守り、時に保育者が間に入り、さらに言葉や遊びのやりとりが楽しめるように援助している。保育者が先回りしたりせず、時間がかかっても「やってみよう」という意欲に繋がるように子どものペースや興味を尊重し、見守る姿勢を持って保育を実践することで、子どもが主体的に活動出来るような環境づくりをしている。</p> <p>実験や工作、五感を刺激する感触遊びを積極的に取り入れて発達を支援している</p> <p>集団活動では椅子取りゲームなどを皆で楽しんでいる。集団に入りたくない様子であれば無理に誘わず、その様子を見守って都度の声かけをしたり、保育者も一緒にゲームに参加して楽しみ、自然に参加意欲が生じるような雰囲気づくりをしている。製作活動は月に1回以上取り入れている。STEAM保育の要素を取り入れ、0～2歳児は水遊び・氷遊びなどの感触遊びや見立て遊びを楽しめるようにしており、氷遊びでは氷が溶ける、小さくなる感触を感じとってもらっている。高齢者との交流でも一緒に切り絵や工作、実験等もおこなっている。</p> <p>皆で戸外に出かけ、自然物に触れ季節の移り変わりを肌で感じる機会を持っている</p> <p>近所の公園等に頻繁に散歩に出かけ、季節に合わせた活動を取り入れている。視察時は全クラスが合同で公園に出かけており、公園では石や葉っぱなどを見つけて触れたり、自然に触れて遊びを楽しむ姿があり、また、柿が落ちていることに気付いたり、セミの抜け殻を見つけたらといった探索活動を楽しんでいた。子ども達は元気いっぱい遊んでおり、石の上によじ登る時にお友だちを助けようと手を引っ張ってあげたりと、小さいながらも優しく他者に接する姿も見られた。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子ども達が意欲的に参加し、達成感が得られる行事を企画・開催している 夏祭りでは準備段階から子ども達が魚釣り用の魚や輪投げのピンを製作し、それを用いて魚釣りや輪投げを楽しんでおり、行事への期待を高め、楽しく参加できるようにしている。また、2歳児の「運動会ごっこ」では、かけっこや徒競走、ゲームなどを実施している。運動会ごっこはスタートからゴールまで最後まであきらめずに走り切る事等、やり遂げることの喜びを感じられることを主旨として実施されており、競技終了後には子ども達にメダルを授与することも行い、意欲的に楽しく参加できるようにしている。</p> <p>高齢者施設や連携保育園との交流行事は子ども達の成長・発達に寄与している 園内行事のほか、高齢者施設や連携保育園と合同で行う行事も実施している。高齢者と一緒に近隣へ散歩に出かけたり、一緒に手形をとって大きな木を製作したり、切り絵を貼った大きな製作物をつくるなど、季節の製作をする中で協力することや労わる気持ちを持てるように取り組んでおり、達成感も味わうことができている。一緒に製作した季節の製作物は高齢者施設の廊下に飾って高齢者にも楽しんでもらっており、子ども達も展示物を見に施設へ出かけて、さらに交流を深めている。</p> <p>行事の様子や普段の活動の様子をSNSでタイムリーに公開している 行事の取り組みに関しては保護者へ事前にメールや口頭で伝えているほか、運用しているSNSにも交流会や運動会ごっこ、ハロウィン、夏祭り、高齢者と一緒に行う実験の様子等をアップしており、行事を楽しむ子ども達の様子や子ども達の豊かな表情を写真で伝えている。行事以外にも、フィンガーペイントや水遊びなど日常の活動もSNSで遅滞なく紹介しており、SNSでの情報公開は保護者の安心感にも繋がるものと推察された。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせる環境づくりをしている 保育時間の長い子どもも多くはなく、朝早い時間、夕方遅い時間とも保育者と一対一の関わりができる為、家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごすことが出来ている。保育士が傍らにつき、子どもが希望する玩具を出したり、広い空間を十分に使って思い切り遊んだり、その子に合わせ好きな遊びができる環境がある。言葉の表出がまだ十分でない子どもの場合は子どもが示す遊びに付き合ったり、保育者からも遊びを提案して、子どもにとって特別な時間となるよう援助している。また、遊びの中にSTEAM保育の要素を取り入れている。</p> <p>長時間保育時もSTEAM保育の要素を取り入れ、主体的に過ごせるよう配慮している 保育時間が長い子どもの保育では、毎日同じ活動にならないよう、同じ玩具や道具を使用して遊ぶ時でも、遊びを変化させたり、遊びを発展させることができるよう声かけをするなどで、子どもが楽しく過ごせるよう配慮している。 延長保育の時間であっても、保育内容はSTEAM保育をベースに工夫をしている。また、全て手助けするのではなく、保育者から声掛けをして「頑張ってるよ」という意欲を引き出せるように心掛け、自主性や自発性を発揮し集中して遊べる環境にしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当	
評価項目6の講評			
<p>年齢に応じた食事環境の中、優しい配慮をして落ち着いて食事ができるよう援助している</p> <p>0歳児は保育士が対面で介助し、個々のペースで食事をしている。食材は手づかみしやすいようにカットし、保育者は見守りつつ、「もぐもぐね」と言葉とジェスチャーで伝えるなど優しく配慮をしている。1歳児は「いただきます」の歌を歌い、こぼすことも殆どなく上手に食事をしている。2歳児は保育者の掛け声に合わせていただきますの挨拶をし、保育者も一緒に食事をしている。子どもも興味のあることや素朴な疑問を保育者に尋ねたりと、嬉しそうに会話をして給食の時間を楽しんでいる様子であった。また、食べ終わると自分で食器の片付けをしている。</p> <p>郷土料理や各国料理、リクエストメニューなど、バラエティー豊かな食事を提供している</p> <p>連携施設の栄養士と連絡を取り合い、食事状況を伝え反映してもらっている。毎月の食事やおやつ献立には、郷土料理や各国料理などを取り入れており、和洋取り混ぜ、国際色豊かな献立となっている。また、毎月「お誕生日献立」等、子どもたちに食事の楽しさを提供している。</p> <p>アレルギー対応は誤食や事故がないよう徹底している。他の子ども達とテーブルを別にしている場合は、寂しくないよう保護者が付き、また、問題がなさそうな食材の場合は保護者に確認の上、他児と同じ机で食べる等、子どもの気持ちにも配慮してきめ細やかに対応している。</p> <p>野菜の栽培や収穫、収穫した野菜を食べるなどの食育が実施されている</p> <p>食育活動ではプランターに苗を植えて野菜の栽培をしており、子ども達が水遣りをしている。収穫した野菜のうちミニトマトやきゅうり等は、保護者の承諾を得たうえでおやつ時間に提供している。また、ナスやピーマン等子どもが苦手な野菜は、炒めたり塩昆布で味付けするなど調理の工夫して給食時に提供しており、好き嫌いをなくすことにもつなげている。子ども達もよく食べるとのことであった。そのほか、交流している高齢者施設の畑で高齢者と一緒に収穫をするなど、施設間の連携を生かした食育活動が実施されている。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当	
評価項目7の講評			
<p>子どもが快適かつ安全に過ごせるよう環境を整え支援している</p> <p>戸外活動を多く取り入れている。雨が降っている日でも園舎横のピロティで遊んだり、おやつ後も散歩に出かけており、子どもが気分転換できるよう配慮している。公園に出かけるときは公園に着いて遊び始める前に、後ろを向いて走らない、虫は潰したり触ったりしない、お茶を飲むときは集まる等のルールを子ども達に分かりやすく伝えている。活動の前後等、手洗いはこまめに行い、病気を予防できるようにしている。</p> <p>研修を実施し、安全確保や健康維持のための対応力を高めている</p> <p>食物アレルギー対応や、投薬(軟膏)対応などは、医師の了解の元で実施している。他国籍の子どもでアレルギーがある場合は、病院の受診に同行して医師から話を聞き、その内容を保護者に伝えるなどの支援もしており、子どもと家庭の状況に応じた対応がされている。また、医療的なケアが必要な場合は外部研修を受講して、保育園として必要な支援ができるようにしている。園内ではアレルギー対応、嘔吐処理、プール(安全)をテーマとして研修を実施し、職員の知識と対応力を高めることに取り組んでいる。</p> <p>保護者には子どもの健康維持に関する情報を提供し理解を深めてもらっている</p> <p>午睡時は全園児が同じ部屋で寝ている。SIDS予防では年齢ごとに決められた間隔で午睡チェックと、うつ伏せ寝の防止(仰向けにする)をおこなっている。午睡チェックの記録には、横向きの場合矢印で睡眠時の向きを示し、向きを直した時には○を付けて、睡眠時の子どもの状況と対応を詳しく記録して事故を予防している。</p> <p>保健だよりには暑さ対策や夏の体調管理等、その季節に応じたトピックや感染症の情報などを記載して保護者に周知しており、保護者との間で保健・衛生に関する情報共有をしている。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>個々の家庭の事情に応じて保護者の支援を実施している</p> <p>保護者個々の事情に応じて保育時間を調整しており、10時からの登園でも子どもを受け入れている。保護者には生活リズムを整えてゆけるように促すこともあり、また、事情があれば病院の受診時に保護者に同行することもあるなど、個々の事情に応じた保護者支援を実施している。トイレトレーニングを保護者と連携して早い段階から実施し、おむつがはずれる時期が全国平均より早いことのメリットが園のウェブページにも紹介されており、その事に関する保護者の感想なども公表されている。この取り組みも間接的な保護者支援になっているものと推察された。</p> <p>通園する中で保護者同士の交流が自然に生まれることも多い</p> <p>保護者懇談会は年に2回開催している。懇談会時には特に保護者同士の交流機会は設けておらず、また、4月の懇談会はWEB上で実施しているため交流は難しいが、生活発表会の時は保護者が参加するふれあい遊びを実施しており、保護者同士が交流する機会となっている。また、保育参観の時は、保護者同士で会話をしている姿があるとのことであり、そのような時は保護者同士の会話に園長も入り、コミュニケーションをとるようにしている。顔を合わせる機会が増えることで2歳児になると保護者同士で自然に交流が深まっていることもある。</p> <p>送迎時に保護者と沢山話すことを心がけ、発達の共通認識を得ることに努めている</p> <p>保護者とは連絡帳や登降園時にコミュニケーションをとっている。小規模な園であり、職員全員で子ども全員を見ることにしているため、クラス担任以外の職員も保護者へ声を掛けるなどの交流が可能である。保護者には、登降園時に発達の様子などを個別に話しており、話しかけ、たくさん話すことでコミュニケーションを深め、発達や育児の共通認識を得ることに努めている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>連携園やグループ内保育園の子ども達と過ごし、多様な体験ができている</p> <p>連携園であるアゼリー保育園の英語教室に2歳児が週1回参加している。また、行事を合同でおこなったり、行事で使用した物を借りる、職員が行事の手伝いに来てくれるなど、アゼリー保育園との交流・連携がされている。そのほか、毎週土曜日は連携園のアゼリー保育園、アゼリーファミリー保育園との合同保育を実施しており、他園の子どもたちと一緒に遊び、過ごすことで多様な体験をすることができる。</p> <p>法人グループ内の他施設との交流機会を密に持ち、活動が子ども達の成長に寄与している</p> <p>法人が運営する高齢者施設や連携施設、グループ内施設が近隣にあるため、高齢者や同年代の子ども、年上の幼児等、さまざまな人との交流を行う事ができている。高齢者と一緒に畑で収穫をしたり、英語を楽しんだり、実験や製作をするなどの貴重な体験をしており、活動を通して高齢者を労わる気持ちなども育まれている。園としてはこの環境を生かして、さらに頻繁に充実した交流ができるようにしていきたいと考えており、今後の取り組みが大変楽しみである。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	STEAM保育をベースとして五感を刺激するさまざまな活動を実施している	
内容①	法人として推進しているSTEAM保育の前段階として、活動には子ども達が興味関心を持ち、楽しく、考えながら活動できるよう五感を刺激する感触遊びを多く取り入れて実施している。寒天遊びやスライム遊び、泡遊び、氷遊びなど、季節に合わせた感触遊びを実施し、保育者は子どもたちの創造力を膨らますような言葉がけして、子どもの興味や関心を高め活動の中で遊びを発展させている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	日常的に高齢者とかかわりを持つことで子ども達は大きな成長を見せている	
内容②	高齢者施設との交流では、社会の中で、たくさんの人に囲まれ、見守られながら生きているということを感じてもらいながら、高齢者を労わる気持ちを持てるようにしている。子どもたちが実施しているSTEAM保育を高齢者と一緒に行う「STEAM介護」を推進し、高齢者と一緒の実験や切り絵などを行い、大きな製作をしたりしている。そのほか、交流の一環として近隣への散歩を高齢者と一緒におこなっているが、これらの取り組みは子ども達の社会経験になっているだけでなく、高齢者の生活の潤いや意欲につながる内容であり、歩行訓練にもなっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-2-1	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている
タイトル③	ICTを活用したペーパーレス化、業務効率化を組織一丸となって推進している	
内容③	ICTの活用によるペーパーレス化やDXの推進による業務改善を継続し、ペーパーレス化に伴いさまざまな面で業務効率化が進んでおり、重要事項についての同意を保護者から得ることなどにもICTが活用されている。法人のDXプロジェクトではICT化やITスキルの向上を推進しており、ITが苦手な人も活用できるよう取り組んでいる。また、ヒヤリハットの分析にも利用していく予定があるなど、その活用度を高めており、保育園としての先駆的な取り組みを円滑に推進している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員が学び、日々の保育において「見守り保育」を実践して、子どもが主体的に行動できる環境づくりをしている
	内容	小規模で家庭的な雰囲気のある保育園である。視察時は、職員が子ども一人ひとりの姿を受け止め、丁寧な声掛けや援助がされており、子ども一人ひとりへの言葉かけが多いためか、子どもたちの発語も多く聞かれた。「見守り保育」を推進しており、その実践にあたっては令和5年度から職員が学び、職員と子ども、子ども同士の動きを動画に撮る等もおこなって、子どもの考え・行動の理解に努めており、行動を止めないことや、子どもをよく見て保育者が先回りしないことに留意し、見守る保育を浸透させて主体的に行動できる環境づくりをしている。
2	タイトル	「自立支援型保育」を推進しており、子ども達は身の回りのことに意欲的に取り組んでいる
	内容	職員各自が子ども一人ひとりを見ることを徹底して日々の保育を実践している。保育の現場では、小さい子であっても生活の流れが分かっているようで、保育者の温かい言葉かけにより促されながら自分のペースで出来ることをおこなっている。2歳児は壁に寄りかかり立った姿勢でパンツを穿いたり、洗濯物を畳んでみたりと意欲的に行動している。自分の事は自分ですするという姿勢が見られ、子どもがやってみようとする姿があった。保育者の見守る姿勢があり、安心感があるからこそ、子ども達が意欲的に取り組んでいるのであろうと推察された。
3	タイトル	パート職員のスキルアップに注力し、正規職員、非常勤職員との連携により日々の保育が実践されている
	内容	パート職員を重要な戦力と位置付け、方針や保育の重要事項を伝え丁寧な情報提供をしている。また、職員会議にも参加してもらい、発達支援や園内の環境整備などについて意見を募っている。そのほか、定期的に個別面談を実施し、キャリアアップ研修や外部研修に参加してもらったり、実務の中でSTEAM保育や自立支援保育を体感してもらうことによりスキルアップが図られており、会議ではパート職員からの建設的な意見が得られている。保育の方向性を共有し、その上で子ども個々と園の保育を理解し、理解に基づく援助ができる環境がつけられている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員のチャレンジを大切にすることで組織風土にも変化が見られている
	内容	職員のチャレンジを大切にしている。また、チャレンジしやすい環境をつくっている。その結果、「やってみる」という風土になりつつある。チャレンジしやすい環境は仕事そのものへの意欲を高める要素となるため、今後もチャレンジングな風土づくりに邁進していただきたい。
2	タイトル	子どもの様子を伝えることについて今後も引き続き取り組み、保護者からの高い満足度を維持していただきたい
	内容	降園時は子どもの様子をエピソードを交えて保護者に伝えることを心がけている。また、その際は良い事も悪い事も伝えることにより保護者との信頼関係を深めている。今回の利用者調査の満足度は100%であり、保護者からの信頼が十分得られていることが推察されるが、子どもの様子を伝えることについては一般的には保護者の満足度に与える影響も大きく、送迎時の声掛けや連絡帳および口頭で様子を伝えてもらうことについては一層の向上余地もあるように見受けられるため、今後も引き続き向上に向けて取り組むことで高い満足度を維持していただきたい。
3	タイトル	保護者同士の交流の場や機会を設けることを検討することを勧めたい
	内容	保護者同士の交流は生活発表会において設けているが、基本的には自然に交流が生まれているとのことであり、年2回開催する懇談会においても保護者同士の交流機会は特に設けてはいない。そのため、保護者同士が交流できる何らかの機会を園として設けることも検討するとよいと思われる。